

2022年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第2大会（第3戦／第4戦） 参戦レポート

5月28日（土）～29日（日）、鈴鹿サーキット（三重県）で2022年FIA-F4選手権シリーズ第2大会（第3戦、第4戦）が開催されました。HFDP(Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 小出峻（1999年10月26日生まれ。22歳）、#6 西村和真（1999年7月21日生まれ。22歳）、#7 三井優介（2002年4月22日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

HFDP 開幕4連勝

■公式予選（20分間+20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ

土曜日の鈴鹿サーキットは朝から晴天となり、気温、路面温度ともに上昇する中、公式予選が行われました。午前8時10分からの公式予選A組には#5 小出、#6 西村が出走しました。木曜日の練習走行から快調だった#5 小出は計測3周目に2分8秒334を記録してトップに立ち、#6 西村が2分8秒374で2番手に続きました。次の周、#5 小出がさらにタイムを2分08秒090へ縮めると、#6 西村も2分8秒201を記録して2番手を守りました。#5 小出はセッション6分を残してピットに戻り、ベスト、セカンドベストともA組トップのまま公式予選を終えました。#6 西村はその後も走行を続けましたがタイム短縮はならず、ベスト、セカンドベストともA組2番手となりました。



10分のインターバルを置いて8時40分から始まった公式予選B組には#7 三井が出走しました。#7 三井はコースイン後3周目にタイムアタックに入りましたが、他車がデグナーカーブでコースオフしたためにセッションが赤旗で中断となり、#7 三井はアタックを途中で打ち切ってピットへ戻りました。この時点で#7 三井のポジションは8番手でした。



セッションは8時55分、残り13分で再開され、コースインした#7 三井は次の周にタイムアタックに入りましたがその直後最終コーナーでアクシデントが発生し、セッションは再び赤旗で中断され、再び#7 三井はアタック途中でピットへ戻ることになりました。

セッションは9時4分、残り10分で再開されました。この時点で8番手の#7 三井はコースインした次の周に改めてタイムアタックに入り、2分08秒808を記録してトップに立ちました。さらに

次の周もタイムアタックを続けてセカンドベストタイムを引き上げにかかりましたが、赤旗で繰り返しタイムアタックを中断したためタイヤの消耗が進んだうえ、前方車両に追いついたこともあってタイムは2分9秒361にとどまりました。セッションはこの周、三たび赤旗で中断となりそのまま打ち切られ、#7 三井のB組トップ（セカンドベストは2番手）が確定しました。

この結果、#5 小出は前回の開幕戦から4戦連続のポールポジションを獲得、第3戦では2番手が#7 三井、3番手が西村とHFDPの3人がスターティンググリッドの先頭から3番手に並び、第4戦では3番手に#6 西村、4番手の#7 三井がつくこととなりました。

第3戦公式予選結果

予選A組1位 #5 小出 峻 2分8秒090 (ポールポジション)

予選B組1位 #7 三井 優介 2分8秒808 (2番手スタート)

予選A組2位 #6 西村 和真 2分8秒201 (3番手スタート)

第4戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選A組1位 #5 小出 峻 2分8秒334 (ポールポジション)

予選A組2位 #6 西村 和真 2分8秒371 (3番手スタート)

予選B組2位 #7 三井 優介 2分9秒361 (4番手スタート)

■第3戦決勝レース（11周）：天候/晴れ 路面/ドライ



午前中の公式予選後、タイムスケジュールが遅れたため予定より遅い午後2時にフォーメーションラップからレースが始まりました。

2番手スタートの#7 三井が鋭く加速しましたが、ポールポジションスタートの#5 小出は、うまく牽制してトップの座を守りました。一方その後方では3番手からスタートした#6 西村が1コーナー進入時にアウトを開けたため、そこに4番手スタートの#35 荒川麟選手が飛び込んで3番手に浮上、#6 西村は1つポジションを

落としました。この順位でオープニングラップを終えようとしたとき、130Rでアクシデントが発生、2周目にセーフティーカーが導入されることとなりました。

このセーフティーカーは4周終了で退き、5周目からリスタートとなりましたが、リスタート後も#5 小出は危なげなくトップを守り、2番手に#7 三井、3番手#35 荒川選手を挟んで4番手に#6 西村が続きました。#5 小出は#6 三井に対して1秒3から1秒4の間隔を確保、#7 三井は3番手#35 荒川選手に対して0秒5の間隔を保って周回を重ねました。4番手の#6 西村もペースが良く、3番手#35 荒川選手に少しずつ近づきますがオーバーテイクには至りません。

先頭を走る#5 小出は少しずつ2番手#7 三井との間隔を開き出しますが、9周目、シケインで停止車両が発生したためセーフティーカーが導入されました。しかし結局レースは再開されることなくセーフティーカー先導のまま11周を走りきってチェッカーフラッグを迎えることになり、#5 小出が第1大会第2戦に続き優勝、#7 三井が2位、#6 西村が4位でレースを終えました。



【FIA-F4選手権シリーズ第3戦・レース結果】

#5 小出 峻	決勝1位	(28分49秒052)	ベストタイム	2分08秒916=ファステストラップ)
#7 三井 優介	決勝2位	(28分49秒181)	ベストタイム	2分09秒304)
#6 西村 和真	決勝4位	(28分50秒834)	ベストタイム	2分09秒489)

■第4戦決勝レース（11周）：天候/晴れ 路面/ドライ



日曜日、鈴鹿サーキットは前日に続いて快晴となり早朝から気温、路面温度とも上昇する中、午前8時30分にフォーメーションラップからシリーズ第4戦がスタートしました。ポールポジションの#5 小出は加速しながら2番手スタートの#97 岩澤優吾選手を牽制してトップのまま第1コーナーに飛び込みました。2番手#97 岩澤選手の後ろには、スターティンググリッド通り、#7 西村、#6 三井が続きました。トップの#5 小出はオープニングラップのうちに2番手との間隔を0秒9にまで広げて優位を確保すると、その間隔を徐々に開き始め

ました。

一方4番手スタートの#7 三井は2周目に前を走る#6 西村に攻め寄り、スプーンカーブでインに飛び込み順位を入れ替えました。その後方、#6 西村は#7 三井の背後についてスピードを乗せた#61 佐藤巧望選手にも攻め寄せられ130Rで先行を許し5番手へ順位を下げました。

#5 小出は独走状態に入り、#97 岩澤選手、#7 三井、#61 佐藤選手、#6 西村の4台が集団となって続きました。この集団の中で#7 三井は前を走る#97 岩澤選手に迫り、4周目のストレートでスリップストリームに入ると5周目の1コーナーに向けてアウト側に並び、そのまま第2コーナーも抜けてS字でインを取って2番手へ進出しました。

その後6周目のシケイン入り口でコースオフ車両が発生したためセーフティカーが介入、3秒以上に間隔を広げて独走状態だった#5 小出以下、各車の間隔は狭まって隊列走行に入りました。アクシデント車両の回収には時間がかかり、セーフティカーによる隊列走行は10周目完了まで続いて、残り1周でレースが再開されました。

ここでも#5 小出は危なげなく先頭のポジションを守り、2番手に#7 三井が続きました。5番手#6 西村は3番手の#97 岩澤選手と4番手の#61 佐藤選手が激しく争う後方でスキをうかがいますが、順位を入れ替えるには至らず、#5 小出が最終周を走りきってチェッカーフラッグを受けてレースは終わりました。



この結果、#5 小出は第1大会第2戦から3連勝を飾り、HFDPは開幕以来の4連勝を記録しました。また2位に入賞した#7 三井も4戦連続で表彰台に上がり、シリーズポイントランキングでトップを守りました。ランキング2番手には#5 小出、6番手には#6 西村が進出しました。

シリーズ第2大会第4戦が終わった段階のシリーズポイントランキングではドライバー部門で#7 三井が#5 小出と4点差の79点でトップにつけて2番手に#5 小出が続き、#6 西村が24点で6番手となりました。またチーム部門でHFDPは2番手に48点差の100点でトップを守りました。

【FIA-F4選手権シリーズ第4戦・レース結果】

#5 小出 峻	決勝1位 (31分33秒251)	ベストタイム	2分09秒429=ファステストラップ)
#7 三井 優介	決勝2位 (31分34秒489)	ベストタイム	2分09秒596
#6 西村 和真	決勝5位 (31分36秒821)	ベストタイム	2分09秒712

■2021FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2022 シーズン第4 戦終了時点)

1 番手 #7 三井 優介 79 点

2 番手 #5 小出 峻 75 点

6 番手 #6 西村 和真 24 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点、)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2022 シーズン第4 戦終了時点)

1 番手 HFDP 100 点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 小出 峻



予選については自信がりましたが、練習ではもっと他を圧倒したタイムで走っていたので、その差がちょっと縮まってしまった点は残念です。第3戦は、レース中のペースをドライビングでもう少し改善できたなと感じていて、自己採点すれば90点くらいです。第4戦でも勝って、3連勝できたのはうれしいです。第4戦は、せっかく築いたギャップがセーフティーカーのためになくなりましたが、あれがなければ後ろを突き放せていたと思います。自己採点すると97点。残りの3点はスタートです。もう少し行けたと思うんだけど、クラッチのミートの当たり具合がほんの少し気に入りませんでした。次のレースまではインターバルがあるのでそこをきちんと対処して臨みます。ランキングはまだ2番手ですが、ぼくはそんなにポイントは気にしていなくて、今年自分がやるべきことをやれば結果的にチャンピオンはついてくるだろうと思っています。



●ドライバーズコメント : #6 HFDP RACING 西村 和真



予選については、前日の練習走行から気温や路面温度を考えると前半しかタイムが出ないだろうと思っていましたし、B組がそうであったように赤旗があると難しいことになると思ったので、なるべく早めにタイムを出していこうと走ったのが結果につながったかなと思っています。ただ、ベストの周ではシケインでブレーキを大きくロックさせるなどミスもしたので、詰めの甘さがあります。第3戦については完走を意識していましたが、1コーナーで荒川選手に行かれてしまいました。ペース的には自信を持っていて、実際その後2周、3周でどんどん近づいていって、さあそろそろというところでセーフティーカーが出てしまい、リスタートがあまりうまく行きませんでした。チームメイトが表彰台に上がっているのにぼくだけ上がれていないことが悔しいです。次の富士までにはオートポリスでのテストやスーパー耐久があるので、そこで経験を積もうと思っています。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 三井 優介



予選は、「ああまた赤旗か、終わったな」という展開でした。再開後に2周だけアタックできましたが、1周目は前にクルマがいてそれをうまく使ってトップタイムを出せたのに、2周目にセカンドタイムを出しにいったとき近づきすぎてタイムが伸び悩んでしまいました。レースでは小出君が速かったけれど、テストまでのギャップを考えると思った以上に離されなかったなとは思いますが、速さ

の違いは自分でもよくわかっているなので、ポジションを維持することが大事、欲を出さずに2位を目指そうと思っていました。第3戦の再スタートでは、タイミングが合わないと加速で離されてしまったり後ろの荒川選手に抜かされてしまったりする可能性があったので、自分の今のポジションをキープするためにも小出君となるべく離れないようにウェービングをしませんでした。でもその分、再スタート直後のS字ではフロントが入らなくて、それで小出君との間隔が開いてしまいました。第4戦は4番から2番に上がったのでまずは満足です。多分岩澤選手はインを閉めてくるからそうしたらアウトから行けと金石さんにアドバイスを受けていて、それがその通りハマりました。次の富士では第1大会で優勝もしているし、ここまで4戦連続表彰台に上がり小出君にしか負けていないので、悔しさは溜めておいて、足りないところを補ってさらに強くなって、次のレースに臨みます。

